自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム さくらんぼ
(ユニット名)	グループホーム さくらんぼ
所在地 (県・市町村名)	長崎県長崎市女の都3丁目1-6
記入者名 (管理者)	平石 静代
記入日	平成 19年10月11日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域との交流をはかり、家庭的な環境のなかで、家族として暮らせるよう願っている。理念を具体的に実践するために、全員で努力目標を決めて入る。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>全員で理念を理解し、実践のため3ヶ月毎に、努力目標を全員提出して決めている。また、出来たか・出来なかったかの評価も全員で行っている。職員採用時には理念を読み合い、理解してもらうようにしている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>毎月、「さくらんぼ便り」を発行し、ホーム前掲示板・公民館・提携医療機関・地域包括センターに掲示して載している。また、ご家族・派出所・他の施設や来訪者に配布して、理解して戴くよう努力している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>毎朝、散歩に行き、公園等で出会う人々や近所の方々と挨拶したり、声をかけてもらっている。近くの保育園の園児の来訪も有り、入居者様はととても喜ばれている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内の夏祭りに全員で参加、パン喰い競争で「さくらんぼの皆さん頑張ってください」等、アナウンスを戴いたりする。公民館まつりや近くの保育園や幼稚園の運動会、遊戯会にも招待して戴いている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の介護教室に参加し、車椅子・ベッド・シーツ等を提供。実習生(ニチイ学館他)の受け入れ、地域の方から認知症の相談や、認定申請の相談も受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の用紙を全員に配布し、全体会議で評価して介護の質の向上を図っている。また年に2回、自分に対する自己評価を提出してもらって、職員の質の向上を図っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター、地域の代表、入所者・家族に参加して戴き、報告や意見交換をして、サービスに活かすようにしている。普段の入居者の生活を見てもらうために、ホーム内で行なっている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターに毎月、「さくらんぼ便り」を届けている。興味をもって見て戴き、センター内に掲示してもらっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会等に参加勉強し、理解するようにしている。現在、地域福祉権利擁護を利用している入所者もおられ、職員も理解出来るよう、話し合い支援している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	長崎県身体拘束廃止推進員養成研修等を受けたり、スタッフ会議等で話し合いをしている。言葉での虐待もありうるので、認知症を正しく理解し、介護するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書でよく説明し、家族の希望や疑問を十分聞いている。納得して戴いて手続きし、署名捺印をしてもらっている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を用意し、利用の方法も説明している。入浴時に入所者が良く話をしてくれるので、申し送りやスタッフ会議等で話し合い、全員で共有し改善している。介護相談員も申し出があった時、受け入れている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族はよく来訪されるので、近況報告をしている。ホーム用のアルバムや入所者個人にプレゼントしたアルバムで、日々の生活や行事等写真で伝えている。金銭は持っていないと安心出来ない人には、少額もってもらい、ホームと家族で管理している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪には近況報告をし、また入所者から家族にしか話されない、意見や不満を聞かれたら、教えて下さいとお願している。安心して生活して戴けるように。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎朝・夕の申し送り時に参加して、話を聞いたりコミュニケーションをはかり、意見や要望を聞くようにしている。入所者の受け入れ時には、スタッフの意見も聞き、記録に残している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>柔軟な体制が取れるよう、余裕ある人員を確保している。夜間も緊急時には、すぐに対応できる体制をとっている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みのスタッフがいつも居るようにしている。新しいスタッフが入った時には、きちんと紹介して、戸惑わないように馴染みのスタッフによく注意してもらっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等には参加できるよう支援している。研修報告や県・市からの通知・通達等は、ホーム内研修として全スタッフに閲覧している。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎グループホーム協議会の会員として、会議や研修に参加し、質に向上に励んでいる。他のグループホームを見学したり、情報交換をしている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	用件や趣味ができるよう、休み希望を受け入れる勤務体制を組んでいる。ストレスや悩みを把握するよう努めている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得に向けた支援をしている。研修等受けられるよう、勤務体制を組んでいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	本人と会って話をよく聞くようにしている。また、体験入所もすすめている。本人がうまく話せない場合には、家族や関係者から聞くようにしている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	本人の現在の状況、困っていることをよく聞いて、介護と安心できる住環境に努めていることに努力している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話をよく理解し、他のサービスや他の施設の紹介もしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に見学してもらったり、自宅に出向いたりしている。体験入所してもらって、安心して暮らせるホームか、本人・家族に納得してもらえるよう努めている。やむを得ず、すぐ入所の場合は、家族や関係者に来訪してもらい、安心感をもって戴く。		やむを得ず、すぐ入所になった場合は、自宅へ出向いて、今までの生活状況等よく把握する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族として一緒に生活していると考えている。料理の下ごしらえを手伝ってもらったり、味見をしてもらう。食器の後片付けもして戴く。出来ない方には、台拭きをもらう。洗濯ものを干してもらったり、たたみは全員でしてもらっている。その都度、感謝の言葉をかけ喜ばれる。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族から自宅での暮らしぶりについて聞き、ホームでもそれに近い生活が出来るようにしている。家族もよく来訪して下さるので、その都度近況報告したり相談している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	正月や盆は、自宅で過ごされるように家族と相談したり、その時の過ごし方のアドバイス等をして、外泊して戴く事も多い。母の日・敬老会・誕生会・運営推進会議等で、一緒に食事をして楽しく過ごせるようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が来訪される事も多い。近くに居られる知人宅に遊びに行けるよう支援している。知人からホームの皆さんで、野菜等送って戴いたり、家族が預かって来て戴く事も多い。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が、どこで何をしておられるかは、スタッフ全員いつも把握しており、寂しくないよう見守りや声かけをしている。スタッフ全員、利用者同士の関係は共有しており、楽しく生活して戴けるよう、調整している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された時は、何回も見舞いに行き、話し相手になったりしている。他の施設に移られても、会いに行ったりしている。亡くなった方には、葬儀に参列した。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活のなかで、馴染みの関係を作る事に努め、本人思いや希望を聴くようにしている。入浴時には、自分の思いをよく話される。スタッフ全員で情報を共有し、その人らしく生活できるよう支援している。また、家族や関係者からも、情報を戴けるようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・家族から良く話を聞き、ホームでの生活状況を報告し、その人らしく生活出来る様、情報を伝えてもらうようにしている。一度に尋ねることは出来ないのので、小さな事でも伝えてもらい、全体像を知り、全員で把握するようにしている。プライバシーには十分注意している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活習慣や体調の変化を把握し、全員で共有している。家庭では出来なかった事、しなかった事がホームでは喜んでされ、家族がびっくりされることも多い。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で、意向・気持ちを確認するよう努めている。また、カンファレンスには、事前にスタッフ全員に書面で意見を徴収し実施している。家族の来訪時に介護計画について説明し、同意の署名を戴き、控えを渡している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月毎を目安に、介護計画を作成し、計画遂行中も、モニタリングを行っている。朝礼等で情報伝達・交換を行い、状態の把握努め、現状にあった計画である事を確認している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、日々の生活の様子や言葉を記録し、スタッフ全員で確認している。週間バイタルチェック表では、体温・血圧・食事量・排泄・入浴・リネン・薬・特記事項、来訪者等すぐにわかるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎日、散歩や買い物に行けるよう支援している。決まった生活ではなく、天候や体調を見て、ホーム前庭や裏庭、野原で昼食をとることも出来る。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の委員になって戴いている。さくらんぼ便りを配布し、ホームの近況を報告している。近隣11軒にはホームの平面図を配布し、緊急時の応援をお願いし、了解してもらっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問看護サービスを受けて、アドバイス等をしてもらっている。家族の希望や本人の体調を考慮して、訪問美容サービスを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターより出席して戴き、情報交換や相談している。現在、権利擁護を利用している入所者がおられる。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族希望の医療機関を受診している。家族が同行の受診には、バイタル等を報告している。受診後は家族から、報告をしてもらっている。通院介助をしたり、訪問診察して戴く事もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隣の協力医療機関と何でも相談し、指示や助言をいただいている。夜間でも往診して戴いている。認知症専門医ともすぐに、相談できる関係を作っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護を受けている利用者もおられる。隣に医療機関の内科があるので、先生に相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	本人に関する情報を提供し、見舞って回復状況等を医療機関や家族と話し合い、必要な支援をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の支援は、家族・医師・看護師と相談している。支援方法が決まればスタッフ全員で共有し、最大限の支援をしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の気持ちを大切に、事業所の出来ること・出来ないことを家族や医師と相談し、安心して過ごせるように支援する。急変した場合は、すぐに対応して戴ける医療機関と連携を図っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まい(他の施設等)で、少しでも困惑をさげ気持ちよく過ごして戴けるよう、ADL・介護の実際(ケアプラン内容や対応を含む)等の、情報を提供している。また、事前に家族には、情報提供を行うにあたり、了解を得ており、プライバシーにも配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>申し送り、スタッフ会議、全体会議等で常に話している。自分に対する自己評価を年に2回しており、事業所全体で取り組みをしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者に合わせた声かけをしている。食べたい物・飲物にしても、温かいのか・冷たいのがいいかを、その都度尋ねている。意思表示が困難な人には、表情や日頃の生活から、本人の希望を把握するようにしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れは大体決めているが、起床・就寝・食事等体調に配慮しながら、個別性のある支援をしている。買物や散歩等も一人ひとりに合わせるようにしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>着替えは本人の意向で自分でされる。スタッフは支援が必要な時に、声かけをして手伝ったりしている。行事等の時には、おしゃれをして戴く。希望に合わせた美容院で出来るよう、支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>買物・下ごしらえ・後片付け等、その人に合った手伝いを、スタッフと一緒にして戴いている。メニューも相談しながら決めたり、好みを考えておいしく食べて戴くようにしている。スタッフも同じ物を一緒に楽しみながら食べている。季節の物を取り入れている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの好みを、スタッフ全員が把握しており合わせている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表により、一人ひとりのパターンを把握しており、声かけや誘導をしている。失敗しても手早く、周囲に気づかれないような配慮をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯はだいたい決めているが、外出等で遅くなる時は待ったり、希望があればシャワー浴が出来る。失禁等で汚染した時は、随時シャワーで対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やリズムを把握しており、声かけ等で対応している。全員、良眠されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干したり、たたんだり喜んで下さる。豆の皮むき、つわ・ふき・芋づるの皮むき、干し柿作り、らっきょうの皮むき等して戴く。地域の行事(公園に花を植える・夏祭り・運動会等)参加している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望される場合は、家族と相談し小額を所持してもらっている。買物時に自分で支払ったり、孫に小遣いをやられる時もある。残高については家族とホームで共有している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や希望に応じて、毎日散歩している。また、買物・ドライブ・食事等に出かけている。ホームの庭の、花や野菜の園芸を見ながら、昼食を摂る事もある。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員で、おくんち見物・稲佐山・花火大会・港まつり・豪華客船入港船・クリスマスイルミネーション等、見に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に、電話をかけた、かかってくる。贈物を戴いた時には、遠方でも電話でお礼を言うようになっている。ハガキや手紙はよく戴くが、支援しても本人は書こうとされない。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人がよく来訪される。お茶やおやつと一緒に食べたり、食事をして戴くこともある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修会で勉強し、それで内部研修をして全員で理解し、身体拘束をしないケアをしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないようにしている。一人ひとりの外出のくせや傾向を、全員で把握し一緒に外に出て花を見たりして落ち着いてもらう。頻ぱんに外に出られる時は、安全のため一時的かけることもある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ワンフロアなので、常に一人ひとりの状況を把握できている。夜間も常に把握できているが、2時間以内ごとに巡視をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	普通の家庭と同じようになっているが、注意が必要な物品は何かを全員で把握し管理している。利用者の状況変化によっては、安全に管理するように対応する。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりに予測される危険を考え、工夫している。食事や献立・服薬・転倒等ヒヤリハットを記録し、全員で共有し、家族にも報告・サインを戴いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	隣の協力医療機関の医師や、消防署より来所してもらって、救急手当や蘇生術の研修を実施し全職員が対応出来るようにしている。外部研修にも参加している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で避難訓練を実施した際、消防に通報する前に、サイレン付き拡声器で近所に助けを求めよう指導された。近隣11軒にホームの平面図を配布し、協力して戴けるようしている。ホームの前の掲示板にも掲示している。消防計画を作り、年2回避難訓練を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こりうるリスクについて把握しており、家族等が来訪時、近況報告と共に話しをしている。自由に暮らして戴くための、ホームの取り組み等も説明し了解してもらっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日に2回、バイタルチェックして記録し、普段の状況を把握しており、状況により医療受診につなげている。早期発見に努め、少しでも変化があれば、全職員で共有し対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は本人に手渡したり、介助によりきちんと服用している。状況の変化を記録し、家族や医師に報告している。処方箋は保存している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に向けて、食事やおやつのお食材を考えている。一人ひとりの排泄状況を把握しており、自然排便が出来るように取り組んでいる。下剤を使用している場合は、個々に合わせた使用量と頻度を考えている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの習慣や意向で見守ったり、介助をしている。口腔ケアの重要性は、外部研修等で勉強し全職員が内部研修等で理解している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや量を把握し、栄養バランスに配慮して、おいしく食べて戴けるよう努めている。声かけや介助で、食事や水分摂取が進むように支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、全職員で学習して予防・対策に努めている。利用者・全職員共、インフルエンザ予防接種を受けている。ペーパータオルを用意し、手摺りやドア取手等、1日3回消毒している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきんは使用都度、石けんで洗ったり漂白して、日光に干している。まな板は漂白して日光に干している。冷蔵庫も点検・掃除し、調理器具、流し台の清潔・衛生を保つよう、全職員で実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には植木鉢やプランターに、季節の花や木を植えている。車椅子で花を植えたり、水やりが出来るよう植木台を作っており、利用者も喜んで眺めたりされる。近所の人も花を見に立ち寄られる。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのカレンダーに貼る折り紙を、利用者と一緒に何を作るか相談しながら折っている。ゆず湯や菖蒲湯、ぼた餅・おはぎ・まんじゅう・もちつき等、季節感を採り入れている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの前庭や裏の花壇に花や野菜を植え、ベンチを用意している。玄関に用意している椅子で、花や外を眺められることも多い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの布団や枕、湯呑み・茶碗・箸、時計やラジオ等を持ってきておられる。家族の写真等も飾ってある。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室やホール等換気に注意している。冷暖房も利用者一人ひとりの状態に配慮し、声かけをしながら調節している。トイレも悪臭が出ないように注意している。備長炭を置いている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアをバリアフリーにして、利用者に合わせてホームの内外に手摺りを付けて、安全確保と自立への配慮をしている。外には植え木台を置いているが、車椅子で水やりや、植えることが出来る高さになっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者が何かわからなくて困ってないか、どうしたら本人の力でやれるか、常に注意して観察し、全職員で情報提供・交換を行い、共有して対処している。状態が変われば、その都度話し合い対応している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの前庭や裏庭に、洗濯物干しを用意し、利用者と一緒に干したり・取りいれをしてもらっている。また、花や野菜を植えたり、水やり・収穫をもらっている。テーブル・椅子も用意して有り、昼食を摂ることもある。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

『さくらんぼ便り』を毎月発行し、配布や掲示で事業所を理解して戴くように努めている。
 地域の一員として、色々な行事等に参加して理解して戴く、家族として楽しく生活してもらえるようにしている。